

# 「人」であり「者」であり……

早稲田大学教授

森山卓郎 もりやま たくろう

まずはクイズから。「日本人」と「代理人」のように、接尾辞的に使われる「〇〇人」には、「じん」「にん」という通りの読み方があります。この違いは何によるのでしょうか。おおまかには、「〇〇人」は、「宇宙人、南蛮人、芸能人、常識人、教養人」など、所属や性質を表す言葉の場合、大体「じん」。

一方、「代理人、保証人、弁護士、仲買人、仕掛け人」などでは、「人」は「にん」と読まれる。まあ「世帯人」などもあるが、大きく言えば、「ゝする人」という場合には「〇〇人」は「にん」である。

実は、「ゝする人」を表す表現は多様だ。「〇〇人」以外に「販売者」「歌い手」「歌手」「運転手」「運転士」「連絡員」などいろいろある。意味も違う。「支配者」は文字通り「支配している人」だが、「支配人」はマネージャーという役職の人。「歌い手」と「歌手」は、

同じように「歌う人」と言えるが、後者は職業的な意味だ。カラオケに行って歌い始めれば、私でも「歌い手」だが、「歌手」ではない。一方、「歌手」と呼ばれる人なら、歌い終わって黙って道を歩いていても「歌手」。その認定はついて回る。

このように、「ゝする人」には、動きの現場で成り立つものと、動きの現場を離れてついて回るものがある。「者」は動きの現場を取り上げた認定の場合が比較的多い。歩いている時「歩行者」になり、温泉施設に入っている時「来館者」「利用者」になる。「負傷者」なども、その時どきの出来事からの認定と言える。「運転者」と「運転手」「運転士」を比べると、「者」が動きの場によって規定される一時的性質なのに対して、「〇〇手」「〇〇士」は職業・資格を表すことが多いのではないか。

しかし、同じ「者」でも、「教育者」

はちよつと違うタイプ。職業や役割としてついて回る。家でお風呂に入ってもカラオケで歌っていても、「教育者」。実は「保護者」もそう。「保護」という「動き」はもはや抽象化している。子どもが教育を受けている間、「保護者」はついて回る。寝ていても起きていても「保護者」は「保護者」。そう、「教育者」「保護者」の「者」には重みがあるのだ。

私たちは忙しい。いろんな「〇〇者」になったり、やめたり。さらに、いつもついて回る「〇〇者」であったりもする。

さて、いま現在こうしているあなた、あなたは「何者」ですか？——はい、申し上げましょう。この文章の「読者」？ 漢字を一つ増やして、「愛読者」？ ……おお、感激。ありがとうございませう！